



JAPAN ACCOUNTING ASSOCIATION

日本会計研究学会第82回大会 研究報告要旨集

2023(令和5)年 9月1日(金)~3日(日)

統一論題テーマ

『新しい資本主義』と会計研究



大阪公立大学



JAPAN ACCOUNTING ASSOCIATION

日本会計研究学会第82回大会 研究報告要旨集

2023(令和5)年 9月1日(金)～3日(日)

統一論題テーマ

「『新しい資本主義』と 会計研究」

日本会計研究学会第82回大会 開催にあたって

日本会計研究学会 会員の皆さま

大暑の候、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

さてこのたび、日本会計研究学会第82回大会を大阪公立大学にて開催する運びとなりました。大会は2023年9月1日(金)から9月3日(日)の日程で、すべてオンラインによる開催となります。本年5月に5類感染症に移行したとはいえ、大会をお引き受けした時期からコロナ情勢は不安定であり、誠に残念ではありますが、すべてオンラインによる開催とさせていただきます。

今大会の統一論題のテーマには、「『新しい資本主義』と会計研究」を掲げました。古くは「資本主義」対「社会主義」の対立構造から、「資本主義」対「資本主義」の多様性の議論へと移り、そして今、多くの点で従来からの資本主義のあり方に対して再考を迫られています。岸田政権が唱える「新しい資本主義」ではありますが、会計研究の立場から「新しい資本主義」を捉え、描き直すことを今大会では試みています。

これまで統一論題は、財務会計、管理会計、監査などの領域ごとに会場設定されてきましたが、オンライン開催の利点を活かすべく、今大会では各領域の壁を取り払った一会場での開催とさせていただきます。9月2日(土)の午前には5人の報告者と4人の討論者(ディスカッサント)にそれぞれの専門的見地から報告をしていただき、午後の討論では桜井久勝先生(神戸大学名誉教授)に座長をお願いして統一論題を実施します。領域を超えた活発な議論となりますよう、皆様のご参加をお待ちしています。

特別委員会報告とスタディ・グループ報告は9月1日(金)の会員総会後に設定しています。9月2日(土)午後および3日(日)午前の自由論題報告では共通したテーマごとにセッションを設け、報告者には相互に討論者も兼ねていただくことで、充実した議論となることをめざしています。さらに、9月2日には国際セッション、9月3日にはASBJセッションを設けています。

実り多い大会となりますように、準備委員会では全力かつ細心に準備を進めてきましたが、予期せぬハプニングや思わぬミスが起こるかもしれません。大会進行時のハプニング等には誠実に対応してまいります。その折にはご寛容のほどをよろしくお願い申し上げます。

オンラインによる開催ではございますが、多くの皆様にお目にかかれようことを準備委員会一同楽しみにしております。

第82回大会準備委員会 委員長 向山 敦夫
浅野 信博 新井 康平
石川 博行 小形 健介
小嶋 宏文 辻 峰男
廣瀬 喜貴 ト 志強

目 次

大会全体スケジュール	2
理事会・評議員会等スケジュール	3
大会詳細スケジュール	
大会第1日目 9月1日(金)	4
大会第2日目 9月2日(土)	5
大会第3日目 9月3日(日)	10
特別委員会報告	15
スタディ・グループ報告	21
統一論題：報告	25
自由論題報告 I	39
国際セッション	59
統一論題：討論	63
自由論題報告 II	65
ASBJ セッション	99

大会全体スケジュール

第1日目 9月1日(金)

10:00～12:00	評議員会
13:00～14:30	会員総会
14:45～15:25	特別委員会報告(1)
15:30～16:10	特別委員会報告(2)
16:15～16:55	スタディ・グループ報告

第2日目 9月2日(土)

午前の部

9:30～12:25	統一論題：報告 統一論題共通テーマ 「『新しい資本主義』と会計研究」
------------	--

午後の部

13:15～15:00	国際セッション
13:30～14:55	自由論題報告 I
15:15～17:15	統一論題：討論

第3日目 9月3日(日)

午前の部

9:30～12:25	自由論題報告 II
------------	-----------

午後の部

13:30～15:30	ASBJ セッション 「ASBJ・SSBJ の活動状況」
-------------	---------------------------------

理事会・評議員会等スケジュール

9月1日(金)

10:00～12:00 評議員会

大会詳細スケジュール

第1日目 9月1日(金)

評議員会 10:00～12:00

会員総会 13:00～14:30

特別委員会報告(1) 14:45～15:25

特別委員会報告(2) 15:30～16:10

(報告時間 各30分 質疑応答 各10分)

特別委員会報告(1)

「管理会計の理論と実践を架橋する臨床知に関する研究」(中間報告)

司会者：三矢 裕(神戸大学)

委員長：澤邊 紀生(京都大学)

特別委員会報告(2)

「会計規制および会計基準の事前評価と事後評価に関する研究」(最終報告)

司会者：戸田 龍介(神奈川大学)

委員長：大日方 隆(東京大学)

スタディ・グループ報告 16:15～16:55

(報告時間 各30分 質疑応答 各10分)

「税務会計研究の変遷と展望 ー新たな研究領域拡大に向けてー」(中間報告)

司会者：大沼 宏(中央大学)

主 査：柳 裕治(専修大学)

第2日目 9月2日(土)

統一論題：報告 9:30～12:25

統一論題共通テーマ

「『新しい資本主義』と会計研究」

解題 9:30～9:35

基調報告 9:35～10:00

(報告時間 25分)

報告(1) 10:05～10:35

報告(2) 10:40～11:10

(休憩 10分)

報告(3) 11:20～11:50

報告(4) 11:55～12:25

(報告時間 各20分、ディスカッションのコメント各10分)

解題

「『新しい資本主義』と会計研究」

司会者：向山 敦夫(大阪公立大学)

基調報告 [人的投資]

「柳モデルと雇用インパクト会計による人的資本の定量化の事例」

報告者：柳 良平(早稲田大学 客員教授)

報告(1) [四半期開示]

「四半期開示を巡る議論とディスクロージャー研究の課題」

報告者：藤谷 涼佑(東京経済大学)

ディスカッション：中野 貴之(法政大学)

報告(2) [循環経済]

「サーキュラエコノミー情報開示の現状」

報告者：北田 皓嗣(法政大学)

ディスカッション：木村 麻子(関西大学)

報告(3) [女性役員]

「女性役員と利益情報の価値関連性」

報告者：黄 耀偉(明海大学)

ディスカッション：太田 浩司(関西大学)

報告(4) [サステナビリティ情報保証]

「サステナビリティ情報保証」

報告者：大槻 櫻子(有限責任あずさ監査法人)

ディスカッション：上妻 京子(関西大学)

報告(1) 13:30～14:10

報告(2) 14:15～14:55

(報告20分・ディスカッサントのコメント10分・質疑応答10分)

第1会場

司会：小澤 義昭(桃山学院大学)

「COVID-19」

(1) 日本企業の労働時間生産性 —COVID-19前から禍にかけての分析—

報告者：平岡 秀福(創価大学)

ディスカッサント：中島 真澄(文京学院大学)

(2) COVID-19パンデミックが経営者のテキスト情報開示アプローチに与えた影響： 日本企業の実証

報告者：中島 真澄(文京学院大学)

ディスカッサント：平岡 秀福(創価大学)

第2会場

司会：音川 和久(神戸大学)

「ファイナンス」

(1) 利益調整行動と固有ボラティリティ：

投資家は利益の質をリスク認識に織り込むか？

報告者：竹原 均(早稲田大学)

ディスカッサント：縄田 寛希(一橋大学・大学院生)

(2) アナリストによる利益予想発表スケジュールの集中度が予想精度に与える影響 —個別のアナリスト予想データを用いた検証—

報告者：縄田 寛希(一橋大学・大学院生)

ディスカッサント：竹原 均(早稲田大学)

第3会場

司会：阪 智香(関西学院大学)

「環境会計」

(1) ESG 推進の方向性 —環境会計の前進のために—

報告者：長田 美悠子(中央学院大学)

ディスカッサント：浅野 達(京都大学・大学院生)

(2) 環境改善効果に基づくグリーンプレミアムの推計

—環境債インパクトレポートにおける環境会計情報の活用可能性と課題—

報告者：浅野 達(京都大学・大学院生)

ディスカッサント：長田 美悠子(中央学院大学)

第4会場

司会：異島 須賀子(久留米大学)

「監査」

(1) 監査人と利益の比較可能性の関係の変化：中央青山監査法人の解体を用いた分析

報告者：金 鉉玉(東京経済大学)

藤谷 涼佑(東京経済大学)

ディスカッサント：亀岡 恵理子(東北大学)

(2) 監査人のキャリア形成とエキスパティーズ開発：多様な経験への着目

報告者：亀岡 恵理子(東北大学)

ディスカッサント：金 鉉玉(東京経済大学)

第5会場

司会：平賀 正剛(愛知学院大学)

「国際会計」

(1) ドイツにおける新収益認識基準の機能に関する一考察

報告者：葛 暁鵬(明治大学・大学院生)

ディスカッサント：肖 森(同志社大学)

(2) 現代中国における会計制度の本質的役割

報告者：肖 森(同志社大学)

ディスカッサント：葛 暁鵬(明治大学・大学院生)

第6会場

司会：椎葉 淳(大阪大学)

「簿記」

(1) 行列簿記と有向グラフの変遷：分析と可視化に焦点をあてて

報告者：礮本 光広(鎮西学院大学)

ディスカッサント：岡田 幸彦(筑波大学)

(2) 複式仕訳データの相互参照性を特徴量化する基礎実験

報告者：岡田 幸彦(筑波大学)

礮 涼稀(筑波大学・大学院生)

平野 翼(筑波大学・大学院生)

ディスカッサント：礮本 光広(鎮西学院大学)

第7会場

司会：諸藤 裕美(立教大学)

「管理会計①」

(1) 固定的な取引関係が管理会計情報の共有に与える影響

報告者：坂口 順也(名古屋大学)
河合 隆治(同志社大学)
ディスカッサント：小笠原 亨(甲南大学)

(2) 売上高の変動パターンとコスト構造の変化 ーコスト構造の推定におけるバイアスー

報告者：小笠原 亨(甲南大学)
新改 敬英(熊本学園大学)
原口 健太郎(西南学院大学)
ディスカッサント：坂口 順也(名古屋大学)

第8会場

司会：安酸 建二(近畿大学)

「目標達成(予算管理)」

(1) 日本企業の業績予想の開示目的に予算管理の特徴が与える影響の分析

報告者：妹尾 剛好(中央大学)
浅野 敬志(慶應義塾大学)
青木 章通(専修大学)
ディスカッサント：矢内 一利(青山学院大学)

(2) 戦略の選択が利益目標のラチェットに及ぼす影響の検証

報告者：矢内 一利(青山学院大学)
ディスカッサント：妹尾 剛好(中央大学)

第9会場

司会：稲村 由美(鹿児島国際大学)

「利益調整①」

(1) その他有価証券の売却を通じた利益ベンチマークの達成と その他の包括利益の開示の明瞭性

報告者：松尾 圭祐(一橋大学大学・大学院生)
ディスカッサント：久保田 良貴(慶應義塾大学・大学院生)

(2) 子会社マネジメントにおける権限移譲と利益マネジメント

報告者：久保田 良貴(慶應義塾大学・大学院生)
太田 康広(慶應義塾大学)
ディスカッサント：松尾 圭祐(一橋大学・大学院生)

国際セッション 13:15～15:00

報告(1) 13:20～13:50

報告(2) 13:55～14:25

報告(3) 14:30～15:00

Moderator&Chair : Makoto Nakano (Hitotsubashi University)

13:15～13:20 **Opening remarks**

Makoto Nakano

(1) [KAA] **How Causal Focus and Specificity in Risk Factor Disclosures Jointly Affect Investor Judgments**

G-Song Yoo (Korea University Business School)

Hun-Tong Tan (Nanyang Technological University)

Discussant: Yusuke Takasu (Yokohama National University)

(2) [TAA] **Non-GAAP Earnings Comparability and Cost of Equity Capital**

Chia-Hsin Chiang (Yuan Ze University)

Discussant: Yutaro Murakami (Keio University)

(3) [JAA] **Environmental Greenwashing :
The Role of Corporate Governance and Assurance**

Frendy (NUCB Business School)

Tomoki Oshika (Waseda University)

Masayuki Koike (Waseda University)

Discussant: Hyungjin Cho (Inha University)

統一論題：討論 15:15～17:15

統一論題共通テーマ

「『新しい資本主義』と会計研究」

座長：桜井 久勝(神戸大学 名誉教授)
報告者：柳 良平(早稲田大学 客員教授)
藤谷 涼佑(東京経済大学)
北田 皓嗣(法政大学)
黄 耀偉(明海大学)
大槻 櫻子(有限責任あずさ監査法人)
ディスカッサント：中野 貴之(法政大学)
木村 麻子(関西大学)
太田 浩司(関西大学)
上妻 京子(関西大学)

自由論題報告Ⅱ 9:30～12:25

第1会場～第11会場

報告(1) 9:30～10:10

報告(2) 10:15～10:55

報告(3) 11:00～11:40

報告(4) 11:45～12:25

(報告20分・ディスカッサントのコメント10分・質疑応答10分)

第1会場

司会：山田 康裕(立教大学)

「ケーススタディ」

(1) 財務困窮企業の株主と債権者

報告者：増村 紀子(兵庫県立大学)

ディスカッサント：佐藤 郁裕(SATO Office)

(2) わが国 IFRS 適用企業の企業会計基準第29号適用結果

報告者：佐藤 郁裕(SATO Office)

ディスカッサント：三原 園子(関東学院大学)

(3) 日産自動車事件の示した課題 —J-GAAP について考える—

報告者：三原 園子(関東学院大学)

ディスカッサント：増村 紀子(兵庫県立大学)

第2会場

司会：奥田 真也(名古屋市立大学)

「ディスクロージャー」

(1) 新型コロナウイルスパンデミック時における企業価値と情報開示

報告者：譚 鵬(関西学院大学)

ディスカッサント：藤谷 涼佑(東京経済大学)

(2) 情報開示コストの異質性：「45日ルール」を使った検証

報告者：藤谷 涼佑(東京経済大学)

ディスカッサント：譚 鵬(関西学院大学)

第3会場

司会：坂上 学(法政大学)

「会計のデジタル化」

(1) Web3におけるトークンの会計基準

報告者：柳田 宗彦(ユニゾン・キャピタル株式会社)

ディスカッサント：倉 光巖(奈良大学)

(2) 会計のデジタル化と暗号資産技術の応用について

報告者：倉 光巖(奈良大学)

ディスカッサント：加納 慶太(県立広島大学)

(3) 会計デジタル化における現在の研究動向

—クラウド会計論文を中心としたレビュー—

報告者：加納 慶太(県立広島大学)

ディスカッサント：柳田 宗彦(ユニゾン・キャピタル株式会社)

第4会場

司会：林 慶雲(名古屋外国語大学)

「英語セッション」

(1) Disclosure Patterns of Intangibles in the Pharmaceutical Industry : Implications for Structured Electronic Reporting

報告者：Clemence GARCIA(学習院大学)

ディスカッサント：Travis Christensen(University of Maryland Global Campus)

(2) Emotions and Tax Compliance Among Gig Workers

報告者：Travis Christensen(University of Maryland Global Campus)

Edward Gamble(バーモント大学)

Anne Christensen(モンタナ州立大学)

ディスカッサント：Clemence GARCIA(学習院大学)

司会：榎本 正博(神戸大学)

(3) New Hire Turnover and Financial Reporting Quality : Evidence from Workforce Disclosure

報告者：俊堅 顧(筑波大学)

ディスカッサント：Wenjun Kuang(大阪大学・大学院生)

(4) Accounting comparability and the accuracy of management earnings forecasts in Japan

報告者：Wenjun Kuang(大阪大学・大学院生)

ディスカッサント：俊堅 顧(筑波大学)

第5会場

司会：尾畑 裕(明治学院大学)

「管理会計 ②」

(1) 21世紀のライフサイクル・コストリング —Life-Cycle Sustainment Plan—

報告者：岡野 憲治(松山大学)

ディスカッサント：河田 信(名城大学)

(2) 「生産知」、「経済知」、「会計知」の連携とポスト・コロナ期の「新しい資本主義」 ～政策提言：“支払いはより早く”(SCCC：資金循環速度)～

報告者：河田 信(名城大学)

ディスカッサント：岸田 賢次(名古屋学院大学)

(3) 中小企業が直面する短納期少量生産と原価管理の課題

報告者：岸田 賢次(名古屋学院大学)

ディスカッサント：岡野 憲治(松山大学)

第6会場

司会：平井 裕久(神奈川大学)

「機械学習」

(1) 機械学習によるテキスト情報を用いた不正検出研究：日本からの実証

報告者：中島 真澄(文京学院大学)

藤田 邦彦(文京学院大学)

吉田 啓佑(文京学院大学)

ディスカッサント：岡田 幸彦(筑波大学)

(2) 制約付き SMOTE による疑似財務諸表の作成手法の提案

報告者：岡田 幸彦(筑波大学)

安藤 廉音(筑波大学・大学院生)

罇 涼稀(筑波大学・大学院生)

ディスカッサント：中島 真澄(文京学院大学)

第7会場

司会：浅野 敬志(慶應義塾大学)

「経営者予想」

(1) 経営者業績予想の達成が従業員のメンタルヘルスに与える影響

報告者：太田 裕貴(静岡産業大学)

黒木 淳(横浜市立大学)

ディスカッサント：越智 悠暉(一橋大学・大学院生)

(2) 経営者の見積り精度がのれんの減損の認識に及ぼす影響

報告者：越智 悠暉(一橋大学・大学院生)

ディスカッサント：三代 まり子(一橋大学・大学院生)

(3) 減損計上が経営者予想に及ぼす影響

報告者：三代 まり子(一橋大学・大学院生)

ディスカッサント：太田 裕貴(静岡産業大学)

第8会場

司会：池田 幸典(愛知大学)

「制度会計」

(1) 純資産直入項目への税効果適用の理論の分析視座

報告者：鈴木 雅康(東京経済大学)

ディスカッサント：與口 博史(専修大学・大学院生)

(2) わが国の仕組債取引における会計実務上の問題点

報告者：與口 博史(専修大学・大学院生)

ディスカッサント：鈴木 雅康(東京経済大学)

第9会場

司会：大塚 成男(熊本学園大学)

「政府・公会計①」

(1) 公会計財務書類を活用した政府財政統計・国民経済計算の推計

—一般政府の年次推計にもたらす改善効果と課題—

報告者：東 信男(会計検査院)

ディスカッサント：黒木 淳(横浜市立大学)

(2) 地方公共団体における発生主義に基づく本年度差額と財政行動

—期間衡平性に関する実証分析—

報告者：黒木 淳(横浜市立大学)

ディスカッサント：東 信男(会計検査院)

司会：遠藤 尚秀(大阪公立大学)

「政府・公会計②」

(3) COFOGに基づく地方自治体会計情報の分類 —茨城県つくば市の事例から—

報告者：生方 裕一(筑波大学)

信夫 咲希(筑波大学・大学院生)

川島 宏一(筑波大学)

ディスカッサント：石川 恵子(日本大学)

(4) 地方自治体のDX推進と内部統制

報告者：石川 恵子(日本大学)

黒木 淳(横浜市立大学)

佐藤 亨(日本生産性本部)

田中 優希(法政大学)

山本 清(東京大学)

ディスカッサント：生方 裕一(筑波大学)

第10会場

司会：尾上 選哉(日本大学)

「非営利組織」

(1) 非営利組織の受益者に対する説明責任 — 質問票調査による実態調査 —

報告者：尻無濱 芳崇(神奈川大学)
井上 慶太(東京経済大学)
藤野 雅史(日本大学)
ディスカッサント：榎本 芳人(文京学院大学)

(2) 社会福祉法人における会計不正事例の分析

報告者：榎本 芳人(文京学院大学)
ディスカッサント：林 兵磨(大阪国際大学)

(3) 財務諸表利用者視点に立つ学校法人会計のセグメント情報の開示について

報告者：林 兵磨(大阪国際大学)
ディスカッサント：尻無濱 芳崇(神奈川大学)

第11会場

司会：山口 朋泰(中央大学)

「利益調整②」

(1) 社債スプレッドと社債発行前利益調整

報告者：野間 幹晴(一橋大学)
敷田 亮子(一橋大学・大学院生)
ディスカッサント：奥原 貴士(四日市大学)

(2) IFRS の開発投資資産化による利益調整と価値関連性

報告者：奥原 貴士(四日市大学)
ディスカッサント：積 惟美(亜細亜大学)

(3) 経営者の自信の程度と裁量的な費用調整

報告者：積 惟美(亜細亜大学)
寺嶋 康二(千葉商科大学)
塚原 慎(駒澤大学)
ディスカッサント：野間 幹晴(一橋大学)

ASBJ セッション 13:30～15:30

「ASBJ・SSBJ の活動状況」

川西 安喜(ASBJ・SSBJ 委員長)
中條 恵美(ASBJ・SSBJ 常勤委員)

特別委員会報告

第1日目 9月1日(金)

14:45～16:10

特別委員会報告(1) 14:45～15:25

特別委員会報告(2) 15:30～16:10

(報告時間 各30分 質疑応答 各10分)

管理会計の理論と実践を架橋する臨床知に関する研究（中間報告要旨）

研究代表者 澤邊紀生（京都大学）

本稿の目的

管理会計やマネジメントコントロールシステム（MCS）の研究は、実務と密接に関わっている実践性の高い応用研究分野である。しかし、レレバンス・ロストの指摘が行われた今日でも、理論と実務のギャップが指摘され続けている。

実務的レレバンスの回復を目指して、活動基準原価計算やバランス・スコアカードがマネジメントコントロール技法として定式化されてきた。さらに、管理会計技法のものもの設計についてだけでなく、その運用を工夫することでレレバンスを回復しようとする取り組み（脱予算論など）も提示されてきた。本稿では、レレバンスの回復を目指すという点では、これらと目的意識を共有しつつ、技法の開発や運用の工夫とは異なる観点からこの課題に取り組む道筋を示す。

本稿では、理論と実務を結び付ける概念として臨床に、科学的知識と実践的知識を媒介する知識としての臨床的知識に、学問的知識と実践とを結びつける臨床の場に注目する。臨床的知識を理論化するためにはどのような研究が必要なのか、その方法についても検討しながら、理論化の方向性を示す。

本稿が着目する臨床的知識と臨床の場

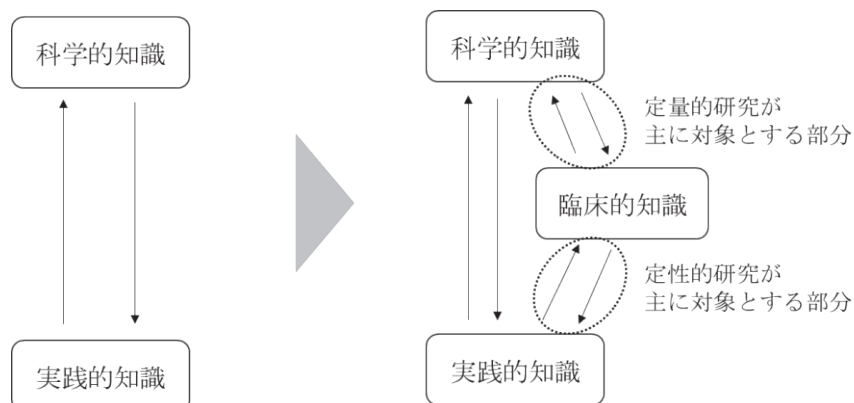
本稿では実践的知識、科学的知識、臨床的知識を次のように定義している。

- ・ 実践的知識：優れた実務家が持つ、自分の置かれた状況を適切に把握し、ヒトやモノにはたらきかけ、目的を達成する技術。（p. 5）
- ・ 科学的知識：定量的に検証可能な経験的命題で構成された理論的知識。（p. 6）
- ・ 臨床的知識：個別事例にあらわれた変化や状態を捉え、分類する枠組みとなる知識。これによって、企業内外の兆候や症状から、その企業が抱える問題を診断し、適切な処方を行う。（p. 8）

管理会計研究において臨床的知識に着目したのは、ロバート・キャプランがケーススタディに基づいた管理会計研究の必要性を主張した論考においてであった。管理会計実践を調査することで、理論が発達し、理論が発達することで実務が発展するといった関係がレレバンス・ロストの背景にあった。キャプランはこのような関係をレスリスパーガーの科学的探究活動の循環図式を用いて理解している（図1左側）。

ここに臨床的知識を加えることで、図1右側のように関係性が変化する。実践的知識から、臨床的知識、臨床的知識から科学的知識、科学的知識から臨床的知識、臨床的知識から実践的知識の4つの矢印が追加されている。臨床的知識に着目することで、それまで知られていなかった臨床的知識が明らかになるだけでなく、経営会計の知の巡りを良くすることが可能である。

図1 科学的知識と実践的知識を結び付ける臨床的知識



また本稿では、臨床的知識を導出するために臨床の場、すなわち臨床家と実務家間のコミュニケーションの場に着目した(p. 10)。例えば経営者が経営会計専門家に悩みを相談するような場で、どのようなやり取りがなされて、課題解決に向けた取組が行われたのかを取りあげている。なお、臨床の場を構築するのは、臨床家と実務家という主体だけではなく、物的環境や処方や診断に用いられる器具や装置も含まれている。

本稿では定性・定量の両面から検討が行われている。

定性的研究(第3章)

定性的研究が対象とするのは、臨床的知識と実践的知識がどのように関わっているのか、関わるべきなのかという点である(図1右下)。臨床家と実務家の双方にインタビューをすることで、客観性を担保しつつ、臨床家と実務家の視座の違いを明確にしながらか調査を行った。なお、臨床家の役割についてはまだ不明瞭な点も多いため、ロールモデルや属性に制限を設けずにインタビューを実施している。全11事例が報告されている。

定量的研究(第4章)

定量的研究では、会計事務所が自社のクライアントについて管理会計実践度と財務データを入力した質問票(臨床会計調査データ)をもとに分析が行われた。中小サービス企業において、業績管理会計と企業の生産性についての分析結果(4-1)、経営者のアスピレーションを加味した分析結果(4-2)が示されている。

定量的研究は知識の土台となる科学的知識を蓄積するという目的を持って行われている(図1右上)。質問票調査を重ねることで、質問票自体を精緻化し、企業の課題を適切に診断できるカルテとして運用できるようにすることが意図されている。

日本会計研究学会第82回大会準備委員会

委員長 向山 敦夫

委員 浅野 信博 新井 康平
石川 博行 小形 健介
小嶋 宏文 辻 峰男
廣瀬 喜貴 卜 志強



大阪公立大学

日本会計研究学会
第82回大会準備委員会

〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
大阪公立大学大学院経営学研究科・商学部
E-mail: jaa2023omu@gmail.com
<https://omu2023.jaa-net.jp>